

## ■ 複合的な条件設定だった本試験

外部連携があるとは思っていましたが、大きな敷地内の一角に出題されるとは思いも寄らなかったですね。読解しなければならぬ部分が多く、また留意事項もかなりツッコんだ内容でした。これらについては、要点や図面表現で詳細が求められるため、単にエスキースをまとめるだけでの今回の解題から先がヘビーだなと感じました。

ですが、読解さえきちんと行ってしまうえば、プランニングは比較的楽で、プール 1 階 2 階、縦横どちらでも成立したと考えられます。

## ■ 敷地条件は道の駅に近い

敷地条件は敷地内に駐車場もなく、東・南のどちらかのアプローチと思いきや、北でも西でもよいという課題設定になっていました。私も当初東からの妻入り敷地では大変だな、と思いましたが、読解を進めていくと、北入りを選択できること、プールは東入りに対して、西側奥にせず、北西を敷地内に開けば、プールは逃がしに計画することができるということがわかります。ここさえ見えてしまえば、面積条件は緩く、プランはしやすかったと思います。

## ■ 出題想定 of 3 つのパターンのひとつでした。

想定したとおり、3 つのパターンのうちの A が出題されました。南入り系、プール 1 階縦、40m<sup>2</sup> 系、大空間 2 階、というところでしょうか。出迎え型と北入り型を練習しておけば、よくみると平易な出題となっています。そういう意味では予測範囲内だと言っても過言ではないと思います。

## ■ スパンコントロールが試されている

スパンについては、製図試験.com が行っているモジュールで考えておいて、最終調整するという方法が必要不可欠であることが実証された感じの出題でした。スパンコントロールが苦手な方にはやりにくい問題ではなかったかと思われます。

## ■ 屋内プール室の上部は使わなくても解ける 2800m<sup>2</sup> 上限

ボリューム的には、シンクロニ模試とほぼ同等の大きさの敷地で、かつ建築床面積ボリュームも大体想定範囲内でした。解題でのプランは、プール上部スパンも使っていますが、使わなくても解けるという床面積であったと思います。

## ■ 上下足について事前に情報をまとめておけたか。

製図試験は、事前準備をいかに積上げておくかという点が重要だと考えています。上下足について、プランと共に要点での出題がありましたが、全て上足、全て下足、課金ゾーン = 健康増進部門のみ上足という選択があったと考えられますが、試験会場で急に考えるのではなく、事前に情報をまとめておけば、この 3 つの解決策から選べたはずで、情報整理の必要性が問われているわけです。

## ■ 要点のボリュームと詳細な内容の問い

要点については、微妙により詳細なポイントをついてきました。図面をまとめる以上に、これらの問いについてはウエイトが高まっているように感じますが、図解はオプションだったので、やはり時間を浪費させるための作戦だったのではないかと思います。ざっくりポイントだけ押さえて、逃げ切れるのが重要になるかと思います。また普段から建築に対する理解を深める、図化する言語を使えるようになるということが必要になります。

## ■ 動じない気持ちを作るために。

問題をやることばかりで整理しないまま本試験会場に向かわないこと。知識をきちんとビルトアップして、様々な問題に対応できるように日々準備することに尽きます。どのように準備すべきなのかについては、建築設計に帯する経験値が違いますので、個別対応が不可欠だと考えています。本試験で動じない気持ちを作るためには日々是精進あるのみです。

平成 30 年 10 月 14 日 22:30